



# FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第72号 2019.3.1.

## FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## 十和田農場から

### 紅葉祭に参加しました

2018年10月6日、7日に十和田キャンパスで学園祭（紅葉祭）が開催されました。十和田農場は今年で6回目の参加になります。参加し始めたころは、十和田農場事務室前の廊下でひっそりと行っていた展示とワークショップは、一昨年から大きな教室で行えるほどに成長しました。

昨年は参加できませんでしたが、今年は一昨年同様、青森市の中川麻子さん率いる「青森県産羊毛の会 aomori wool（アオモリウール）※」の皆さんをお招きして、十和田農場の展示ブースで糸つむぎや羊毛フェルトのワークショップを行いました。アオモリウールの皆さんに持参していただいた糸車を使って、来場者の皆さんに実際に糸つむぎを体験してもらいます。普段手にも目にもしないような機械を使って、ふわふわの羊毛から糸が紡がれていく様子に、お客さんたちはとても喜ばれていました。

ここで使用している羊毛はすべて十和田農場の羊のものです。春に職員が全頭の毛刈りをハサミ一本で行い、刈り取った羊毛は手洗い、染毛、カーディング（羊毛の毛並みを整えて絡まりをほぐす作業）を経て、ようやく



糸つむぎや羊毛フェルトに使用することが出来ます。

アオモリウールの皆さんも、自分たちの活動を多くの人に伝えることが出来ることに、感動されていました。来年の紅葉祭もアオモリウールの皆さんにワークショップの開催をお願いしていますので、興味のある方はぜひご来場ください。

※aomori wool (アオモリウール)：青森県産の羊毛にこだわり、今までは廃棄処分されていたサフォーク種の羊毛を中心に手作業で毛洗い、染織、紡糸、したものを織ったり編んだりして作品を制作しています。代表の中川麻子さんは、「青森県で生まれ育った羊の毛は、青森県民によく合いよく馴染む。青森県の人たちに知ってもらって使ってもらいたい」とお話しされます。十和田農場とは数年前から羊毛の取引をしており、今まではほとんどが廃棄され堆肥となっていた十和田農場の羊毛を、毎年ご購入していただいています。また、先日はアオモリウールの活動が地元紙に取り上げられました。

【参考】<https://www.toonippo.co.jp/articles/-/133767>

## 八雲牧場から

### 視察相次ぐ

今年度は例年にも増して外部からの視察者が多数お見えになりました。10月21日には女優の杉本彩さんご一行が、八雲牧場のアニマルウエルフェア畜産を興味深くご覧になり、北里八雲牛を試食して行かれました。この他にも多くの来訪者に牧場を見てもらい、八雲牧場の魅力が全国に拡散したものと期待しています。



### 下牧完了

2018年11月1日に、八雲牧場内のすべての牛を放牧地から下牧し、牛舎での飼養を開始しました。例年10月末には雪が積もるので中旬から下旬には下牧するのですが、今年は雪の降り始めが遅く、1日間だけでしたが11月まで放牧する事ができました。12月も雪が余り無く、除雪作業に追われずに済みました。

### 第5回北海道肉専用種枝肉共励会で受賞

2018年11月8日(木)に第5回北海道肉専用種枝肉共励会が帯広畜産公社で行われ、八雲牧場から小笠原先生、小野係長、野原さん(研究生)、田中さん(動物資源科学科

4年)、西澤の5人で参加しました。共励会へは八雲牧場から3頭の牛が出展されました。八雲牧場から出展された牛が赤身賞を受賞しました。

最優秀賞の枝肉は大きく、脂肪もなくロース芯も他に比べると大きいものでした。赤身賞の枝肉は、皮下脂肪や枝肉中の脂肪が少なく、「これぞ赤身肉」という枝肉でした。



### 第15回資源循環型肉牛シンポジウム2018に参加

第15回資源循環型肉牛生産シンポジウム2018が2018年11月8日に帯広畜産大学講堂で行われ、八雲牧場から小笠原先生、小野係長、野原さん(研究生)、田中さん(動物資源科学科4年)、西澤が参加しました。

講演では、6人の講演者の発表があり、これからの時代はアニマルウェルフェアや動物福祉という付加価値が消費者の購買意識に関与してくる時代になるとのことでした。

八雲牧場の有機畜産や循環型畜産というワードは、これから重要になるキーワードのようでした。